



日立一高ラグビー部OB会 会報

<http://www.ichiko-rugby-obc.com>

○新OB会長 あいさつ

第3代会長 尾 又 篤(昭和36年度 第14回卒)

この度、第3代OB会長の重責を担うこととなり、身の引き締まる思いを感じております。

初代会長：鈴木清介氏、第2代会長：吉田尚一氏を中心として、諸先輩方が営々と築かれてきた日立一高ラグビー部OB会の歴史と伝統を後輩たちへ継承していくこと、そして何よりも、茨城県高校ラグビーの草分けとして恥じない、立派なチーム作りを支援していくことが、私に課せられた使命と考えています。

時代は移り、プロ化が容認されるなどラグビーのスタイルも年々変わってまいりましたが、限界への挑戦、自分をこらしめて味方(ボール)を生かす、ノーサイドの精神などラグビーの本質は、少しも変わっておりません。

今日の日立一高を取り巻く状況を考えて、「学業との両立」という命題を抱えながら強いチームを作ること、またその前段として部を存続していくことについても容易なことではありませんが、最終目標を「花園出場」、当面の目標を「関東大会出場」に据えて取り組んでまいります。

今後とも、誰もが気軽に顔を出せるOB会づくりを進めてまいりますので、OB諸氏の御支援、御協力を切にお願い申し上げます、新任のごあいさつとさせていただきます。



○前OB会長 あいさつ

第2代会長 吉 田 尚 一(昭和31年度 第9回卒)

振り返ってみますと、6年前のある日突然、内山先輩とOB数人から会長就任の話があり、かたくなに固辞しましたが受け入れられず、大役を受けることになり、果たしてこの大役を全うできるかどうか不安いっぱいスタートでありました。

まずは職責を全うできましたことは、OB各位の皆様のご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

特に近藤幹事長をはじめ役員の皆様には、重ねてお礼申し上げます。



1. 近藤幹事長…快く引き受けてくれて以来6年間、OB会活動を軌道に乗せてくれたことは、70年にならんとする歴史に特筆すべきことであり、この貢献度は大である。
2. 父母会組織…選手(現役)の父である長谷川氏を中心に父母会が結成された。過去にも結成された経緯はあるが、今回の盛り上がりはOB会の盛り上がりと相まって相乗効果をもたらし、これ又一高ラグビーの歴史において特筆できる。
3. OB各位の関心
夏合宿(菅平)に早大OBの益子、吉野、照沼の三氏が駆け付け、熱心に指導する姿は、他の高校から見れば誠に贅沢な恵まれたものであり、一方地元日立においては、OB集合日に10数名のOBが駆け付け熱心に指導することが定例となり、OB各位の関心が数段上がったように思われる。
4. 各種イベント
正月の蹴り初め、ゴルフコンペ、選手とOB・父母のバーベキュー等々、イベントも盛り上がり、公式戦、練習試合、合宿、練習の応援等にも、参加するOB・父母が増え、活況を呈している。
5. 新役員に対する期待
尾又新会長をはじめ、新しい役員には70年にならんとする伝統を引き継ぎ、そしてその次の世代に渡し、80年、90年、100年と続くようなOB会のために、努力していただきたい。

○平成22年度 学年幹事会(定例総会)開催報告

前年度の事業報告、本年度の事業計画等を審議する学年幹事会を6月26日(土)に出席者37人(学年幹事29人、賛助会員5人、父母会3人)で開催し、各議案については原案どおり承認されました。

なお、役員70歳定年制導入等に伴い、吉田会長、近藤幹事長、佐藤(馨)幹事が退任され、新会長には尾又篤氏が満場一致で選任されました。以下、その要旨を抜粋しご説明します。



中央右が、資料を説明する近藤幹事長

1. 平成21年度活動報告

1-1 重点活動方針のフォローアップ

- 1) 財政の安定のため収入の増加を図る。・・・「入るを図る」

	年会費	広告料	合計
19年度	455千円(101人)	—	455千円
20年度	430千円(125人)	260千円(15件)	690千円
21年度 予算	500千円(150人)	300千円(20件)	800千円
〃 実算	356千円(108人)	244千円(16件)	600千円
実算/予算(%)	71%(72%)	81%(80%)	(75%)

※年会費制を導入して3年が経過し、マンネリ化している。景気が悪いなど逆風が吹いているときこそ、それを乗り越える動きが必要だった。

- 2) 大幅に軽減した経常予算を死守する。・・・「出るを制す」

全体事業費は、予算850千円に対して実績822千円(97%)と辛うじて守ることができたが、各種会合等の支出増があり、やむなくOB会報の発行を1回削って対応した結果となった。

1-2 重点実施項目のフォローアップ

- 1) OB会費の納入促進・・・未達成(上記参照)
- 2) OB会報広告料の増大・・・未達成(〃)
- 3) グッズ販売の開始・・・調査段階で「売れない」不安を感じ中断
- 4) 新入部員の確保・・・目標10人のところ9人(※その後1人入部し目標達成)+マネージャー3人
- 5) 先生とOB指導者との定期打合せ(目標2か月に1回)・・・未実施
- 6) 父母会との交流・・・総会、役員会ほか相互交流を実施

1-3 会計報告

	予算(円)	実算(円)	増減(円)
前年度繰越	1,281,133	1,281,133	0
当年度収入	850,000	600,356	△249,644
当年度支出	850,000	821,683	△28,317
次年度繰越	1,281,133	1,059,806	△221,327

収入が当初予定を大幅に下回ったため、繰越金が前年残高より221千円減少してしまった。次年度以降で収入増を図らないと、資金面でパンクする危機に面している。

2. 平成22年度 事業計画

2-1 重点方針

- 1) 収入の増加を図り、収入に見合った緊縮予算を遵守する。
- 2) 部員数が少ない現役の県内ベスト8維持を支援していく。

2-2 活動計画と経常予算

(単位：千円)

	21年度実績	22年度予算	備 考
学年幹事会・役員会等	107	100	会場費等(参加者会費等を補填)
OB会報発行	143	140	年1回発行(送料および封筒折込等込み)
大会参加資金援助	90	80	県内4大会×2万円
菅平遠征 〃	100	80	部員の交通費・宿泊費等の補助

ミニ合宿資金援助	51	40	部員の交通費・宿泊費等の補助
菅平合宿指導者派遣	50	50	5,000円/泊×5人×2泊
蹴り初め開催	△13	0	会費(1,000円/人)の不足分補填
ゴルフコンペ開催	30	30	参加者の寄付と合わせて
交流会、講演会援助	106	60	卒業生を送る会、父母会との交流、講演会費用等
慶弔費	65	50	
事務費	93	80	主に各種会合、蹴り初め等開催時の通信費
予備費	0	40	
計	822	750	前年度比78%

3. 役員改選

1) 平成22年度役員 (※は新任者)

会 長 尾又 篤 ※ (S36・14回卒)	幹 事 黒沢 祐士 (S50・28回卒)
副 会 長 村山 功 (S42・20回卒)	〃 照沼 康彦 ※ (S51・29回卒)
〃 武藤 達也 ※ (S45・23回卒)	〃 柴田 和則 (S57・35回卒)
〃 益子 俊志 ※ (S53・31回卒)	〃 鶴巻 仁 ※ (S57・35回卒)
幹 事 長 木下 俊雄 ※ (S54・32回卒)	〃 黒澤 次郎 ※ (S58・36回卒)
事務局 長 金澤 勉 ※ (H4・45回卒)	〃 菊池 敬 (S61・39回卒)
会計監事 山本 宏 (S51・29回卒)	〃 高橋晃太郎 ※ (S61・39回卒)
〃 笠井 知洋 (S59・37回卒)	〃 本田 浩一 (H2・43回卒)
幹 事 松永 啓 (S40・18回卒)	〃 尾又 彰彦 ※ (H2・43回卒)

2) 退任役員

会 長 吉田 尚一 (S31・9回卒)
幹 事 長 近藤 雅年 (S32・10回卒)
幹 事 佐藤 馨 (S33・11回卒)

退任された3人の役員さんには、長い間大変お世話になりました。
これからも、グラウンドや会合に足を運び、ご指導くださるようお願いいたします。

○ 平成22年度 菅平遠征報告

監督 橋本 晃 輝(昭和60年度 第38回卒)

3年生が6人参加して、例年以上に盛り上がった菅平合宿。今年もたくさんのOB、父母会の皆様の熱い声援を受け充実した時間となりました。

今年は県立千葉(千葉)、甲府工業(山梨)、横須賀(神奈川)、高知中央(高知)、坂出工業(香川)、仙台(宮城)と試合を実施し、全国大会出場校とも対戦しました。横須賀・高知中央(大八木淳史氏がGM)との巴戦では、菅平サニアパークのメイングラウンドで試合ができ、強豪校との戦いにより思い出ができました。また、練習面では例年おなじみの照沼・吉野・益子先輩のコーチングに加えて、早稲田大学ラグビー部監督の辻高志氏を招聘して有意義なセッションを受けることができました。時間は短かったですが、質の高いアドバイスを頂き貴重な時間を与えてくれました。今年の菅平では怪我人も少なく、刺激の多い充実した合宿となりました。

秋の大会は、3年生の集大成の大会であり、総力を挙げての戦いになります。諸先輩の皆様、引き続きご指導の程、よろしくお願いいたします。

※合宿に参加した賛助会員の長谷川さん、中野さんからは、参加費のほか多大なご芳志をいただきました。
この場をお借りして、ご報告方々お礼申し上げます。(OB会事務局)

○ 今年度の現役部員の戦績

監督 橋本 晃 輝

現在、全国高校ラグビー大会県予選を控え、チーム作りの最終段階に来ているところです。県新人大会以降、さらなるチームの飛躍(意識改革)を求めた春合宿(習志野自衛隊駐屯地)、夏休みには茗溪学園との合同練習、菅平合宿、常総学院との合同練習を経て刺激を多く受けました。

関東大会県予選は、上位シード校に完敗しつつも前大会で失ったシード権を奪還。国体県予選では、リベンジを果たすべく臨んだ勝田工業戦に完敗。勝負どころで体を張った攻めの姿勢がとれず、相手の攻撃を受けてしまった残念な内容でした。

秋のラグビーシーズンまで残った3年生が強い意志をもち、そのもつで1、2年生が攻めの気持ち、1 v.s. 1のファイト、低く強くそして速いプレースタイルを確立すべく全国大会県予選では精一杯頑張ります。

【平成21年度全国高校総体(兼)第89回全国高校ラグビー大会茨城県予選】 ※前号に未掲載のため参考

1 回 戦	日立一	118 -	0	合同A(緑岡、茨城東)
2 回 戦	日立一	97 -	7	太田一高
準々決勝	日立一	5 -	80	茗溪学園



【平成22年度茨城県高校ラグビー新人大会】

1 回 戦	日立一	46 -	0	水城高校
2 回 戦	日立一	0 - 14	1	清真学園
5位決定戦	日立一	7 -	10	勝田工高

【第58回関東高校ラグビー大会 茨城県大会】

1 回 戦	日立一	53 -	5	合同B(緑岡、水戸農、勝田、茨城東)
2 回 戦	日立一	31 -	12	下妻一高
準々決勝	日立一	0 - 11	1	清真学園
5位決定戦	日立一	43 -	26	合同C(土浦一、つくば国際、牛久、東洋大牛久)



【平成22年度県民総体(兼)第64回国体ラグビー茨城県大会】

《Bブロック》

1 回 戦	日立一	32 -	12	下妻一高
決 勝	日立一	0 - 24		勝田工高

特集!! 併設型中高一貫教育校への改編について

日立一高は平成24年4月から「併設型の中高一貫教育校」に改編され、男女計80人(2学級)の中学生を募集し、平成29年度には、同敷地内に中学校を有する中学校6学級(2学級×3学年)、高等学校18学級(6学級×3学年)全校生徒960人の「併設型の中高一貫教育校」が完成する予定であるとのことです。

更に、高校2年生からは、普通科(4クラス:160人)とサイエンス科(2クラス:80人)に分かれる予定であり、サイエンス科においては、医歯薬・難関理工系大学への進学実現に向け、個に応じた指導を徹底することです。(※以上、日立一高ホームページの「併設型中高一貫校情報」から抜粋)

(※ここからは、編集者の個人的見解です。)平成22年5月現在の日立一高の生徒数は956人(男子547人、女子409人)ですが、平成29年度に「併設型の中高一貫教育校」が完成すると、男女比も概ね半々になることが予想されるので、高等学校の生徒数は40人×6学級×3学年=720人(男子360人、女子360人)程度になるものと思われます。

つまり、男子生徒は1学年120人程度になるということです。現在の男子生徒数(推定で547人÷3学年≒182人)が3分の2以下に減ってしまうことになります。

私たちラグビー部OBは、県教育委員会や学校側が決定したことに口をはさむ立場にはありません。

しかし、2年後から男子生徒の数が段階的に減少していき、最終的には現在の3分の2になってしまうという現実には直視しなければなりません。60余年の歴史と伝統を有するラグビー部の存続を図るためには、すぐに対策を講じていかなければならないのではないのでしょうか。

現状を維持していくためには、少なくとも1学年につき10人の部員を確保する必要があります。医歯薬・難関理工系大学を目指す80人を含めた1学年240人(うち男子は120人程度)の中から、いかにして10人以上のラグビー部員を確保していくか…限られた時間の中で、真剣に考えていく必要がありそうです。

○「蹴り初め」を開催しました

今年も、新春恒例の「蹴り初め」を1月3日(日)に日立一高グラウンドで開催、暖かな好天に恵まれ、老若合わせて約70人のOBが集まり、新年あいさつの後、20歳代・30歳代・40歳以上の3チームを編成してOB戦を行いました。

昨年は、正月疲れで動きが鈍いOBに対して、現役がほぼ互角に戦うことができましたが、残念ながら今年はタックルの甘さが目立ち、3ラウンドで1本(2本?)しかトライを奪えず完敗と、やや厳しい年明けになりました。

今年も試合後は1週間後に迫った新人戦に向けて、OBが胸を貸して練習台になり、最後は第5回卒の大内二郎先輩と保護者が作ってくれた豚汁を食べて解散しました。大内さん・保護者の皆さん、早朝からの準備ありがとうございました。

なお、今年は卒業したての20歳代のOBが多数参加したせいか、例年より活気に満ちていました。来年も再来年も、多数の若手OBが参加してくれることを期待しています。
(もちろん、ジャージに着替えて!!)



○ 第6回OB会長杯ゴルフコンペの開催について

スポーツの秋到来、ゴルフシーズンがやって参りました。恒例となりました日立一高ラグビー部OB会の第6回ゴルフコンペを下記の通り開催いたしますので挙ってご参加下さいますようお願いいたします。

今迄に参加している方にはご案内を差し上げておりますが、参加したことのないOB会員の方で今回参加したいという方は事務局宛ご連絡ください。折り返し今回の詳細なご案内をお送りいたします。

1. 日 時 11月6日(土)
2. 場 所 五浦庭園カントリークラブ
3. 費 用 11,500円
(昼食代、プレイ後のパーティ代含む)
4. 宿 泊 希望者はゴルフ終了後、平湯の民宿(丸勇)で宿泊・懇親会を行います
(1泊2食、宴会飲代込みで約12,000円)

【ゴルフコンペ事務局：近藤 雅年、TEL：0294-34-6373】



○ OB通信

このコーナーは、OBの方々に昔の思い出や近況等のご紹介をいただいています。今回は、今川敏宏さん、高橋晃太郎さんにお願ひしました。お忙しい中ありがとうございました。

「甦った想い」 今 川 敏 宏(昭和55年度 第33回卒)

一高に入学してすぐ部活見学のためグラウンドサイドにいた。するとけっこうかいラグビー部員が寄ってきて「ここで見てたらラグビー部に入るようになるぞ」と。2年先輩の益子さんだった。「こんなに小さな体でもラグビーできますか」と聞くと「大丈夫、誰でもできるよ」と言われ、自分にもできるかもしれないとの思いで入部した。

練習はきつい、苦しい、痛い、汚いの連続だったが、いつの間にかのめり込んでいた。その秋、全国大会初出場。見てて震えるほどの試合だった。

次の年のチームは一高史上最強と言われた大型チームだった。順当に2年連続全国大会出場したものの、大工大高に完敗するのを目の当たりにし、全国レベルの壁を痛感した。

自分たちの代は先代に比較してかなりの弱小チーム、とにかく新人戦優勝することが悲願であった。それしか頭になかった。新人戦準決勝、後半。モールサイドの攻防で左膝にタックルが入った。そのまま退場。入院。決勝戦に出場できず。無念。布団の中で声をあげて泣いた。泣いた。最後の大会前に復帰できたがケガ以前の自分のプレーはなかった。それでも三度花園の切符を手にした。引退後ラグビーへの想いを心の奥深くに封印した…

時は流れ本年、私の次男が一高に入学し、思いがけずラグビー部に入部したのを機に29年ぶりにグラウンドを訪ねました。案の定それまで封印していたラグビーに対する思いが溢れ出てきました。「ラグビーをしている子どもたちがかわいくてしかたない」「やっぱり俺はラグビーが大好きだ」と。30年前とはラグビーもプレーする子どもたちの思いも違うかもしれないとは思いつつ、一高ラグビー部のすばらしさが子どもたちの心に響き伝承されていけばいいと思います。これまで一高ラグビー部を支えてきてくださった方々に、ただただ感謝と敬意に絶えません。今後ともよろしくお願いいたします。



菅平で益子先輩と

「とある「ラグビー」についての考察」

高橋 晃太郎(昭和61年度 第39回卒)

2010年の夏、観測史上最大の猛暑らしい。僕の場合、灼熱の太陽に晒されると否応なしに夏合宿の記憶が呼び起こされる。暑かった、苦痛の時間は長く、太陽は中空に留まり永遠にグラウンドを焦がし続けるように思われた。今年の夏を走りぬけた高校ラグビーマン、彼らの熱と伴に刻まれた記憶の襞もまた、将来たおやかなる想いに昇華されるだろう。そして僕は記憶の襞を探る。

僕はラグビーを継続してはいない、ついたり離れたりしている。現在は常陸不惑クラブにお世話になりプレーしている。どうも日立に腰を落ち着けているとラグビーをすることになるらしい。日立一高ラグビー部での原体験がない人生というのはあり得るのだろうか？

僕の高校三年時、關将菊池敬を中心とするチームはサイズが大きかったこともあり(僕は100kgを超える巨漢ブロップだ)、FWを軸とした攻撃をするような印象を持たれていたと思う。実態は違った。FWはセットプレーを安定させ、プレッシャーをかけ続け、ラックでボールを展開する、主な役割はこれだけ(自負心は当然あるが)。試合を決めるのはBK陣の才能だった。

凡人ではあるが愚直で強靱なCTB、それを取り囲むようにして天才達が配されたBK陣だった。それにつけても、速く走れるって、なんて素晴らしいのだろう！彼らのプレーは優雅で華麗で狡猾であった(ムラ気もあったが)。

ここで天才の一人だった男を紹介したい。長田桂一、彼は才能があったがレギュラーではない。ラグビーに対する愛情と同等のものを、サッカーとギターと女の子に向けたために、度重なる怪我に襲われ、彼本来のスピードとテクニックは奪われた。

この男、教師によく殴られていた。鬼監督の滑川先生にはもちろん、数学教師にまで殴られていた。理由なんてない、ある種の少年の純真は善良な大人の憎しみを買う。

長田は何者か？(ちなみに明治大学を卒業後、大手証券会社に勤務している)……リーダーではない、しかしナイーブな集団の中では、個の成長に一定の役割を果たす天命を持つ。多様性は包容力を生む、大人に対する気骨は仲間への愛情となって表れる。なにしろ、自分を殴った相手に憎しみを抱かない、自分が折れないことの方が大切だ。正しい少年なのだ(今でも)。

大切なかも知れない事柄がもうひとつ、彼はラグビー部員だった。サッカー部でも軽音楽部でもなく。僕は彼の強さの後ろ盾はラグビーそのものだと思っている。ラグビーが多様性を認めるので、包容力を成熟させたのだろう。ラグビーから生まれた個性。ジャン・ピエール・リーブのセリフの通りだったりして、「ラグビーは少年をいち早く大人に変え、云々」(会報10号、柴田和則さんのOB通信を参照されたし)。

あるいは、「長田」はラグビーが示す記号のひとつだ、いつの時代のラグビー部にも、名は違えども現れる。

さて、僕が高校三年の秋、有り体に云って、それまでの人生で一番重要な試合が行われた。

花園をかけた県大会決勝、対茗溪学園。試合の終盤、点の取り合いでスコアが拮抗した中、僕たちは負傷退場によりエースを失うことになる(相手にとって一番の脅威が消えた)。パニックに陥る場面、交代で登場したのが長田だった。

彼は涙を流しながら、ナニゴトか叫びつつ、少し持ち上げた拳を握りしめ、ダンスのようなステップを軽く踏みながら歩いてポジションについた。人気者の登場にスタンドの応援が沸き、チームのパニックは治まっていた。

僕は、ラグビーだな、と思う。それがすべてではない、だが、なくてはならない。僕の拙文を最後まで読んでいただいた諸氏から、ある程度の同意も得られるのではないかと思います。だから、グラウンドで会おう、そして酒場で語ろう。



○ 父母の会だより

父母の会会長 小野 豊 満さん(3年生:小野太志君の父)

日立一高ラグビー部OBの皆様、保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年度、父母の会会長になりました、3年生小野太志の父の小野豊満です。昨年度の深谷会長にはとても及びませんが、日立一高ラグビー部のために微力ではございますが、お役に立ちたいと思っております。

保護者の皆様は、ラグビーって、危険、汚い、きつい、3Kのスポーツと思っていま



(練習や試合の日程は、日立一高ラグビー部OB会のホームページでご覧になってください。)生徒たちのプレーする姿を見、「One for All, All for One」、ノーサイド精神に触れ、きっとラグビー観戦好きのラグビーファンになれますよ。私事です、私、妻ともに一高ラグビーの追っかけに夢中になっております。

今年も、有望な新人が多数入部し、顧問の橋本先生、照沼先生、OBの熱心なご指導のおかげで、春のチーム同様、夏合宿後のチームも、レベルが相当上がっているように思われます。どうか、OB、保護者の皆様には、応援よろしくをお願いいたします。

日立一高ラグビー部員の皆さん、ラグビーと学業の両立は大変だと思いますが、ぜひ3年間、花園を目指して練習、試合に励んでください。高校時代の良い思い出ができるとともに、生涯の友人ができるはずです。

保護者の皆様、私たち父母の会も、先生方やOB会の方々と連携を図りながら、生徒たちの力になりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○全国大会県予選の組み合わせが決定しました。

平成22年度全国大会県予選の組み合わせが下記のとおり決まりました。

10月 9日(土) 11:40	堀原運動公園自由広場	vs	水城高校
10月16日(土) 10:30	堀原運動公園競技場	vs	つくば国際大・東風と東洋大牛久の勝者
10月23日(土) 12:50	岡村製作所(守谷市)	vs	清真学園

順当にいけば、今年度4大会中、3回目の清真学園との対決になります。(組み合わせのシステム上、やむを得ませんが、昨年は茗溪学園、今年は清真学園と、特定の学校とばかり対戦しています。)

皆さんの声援が、部員への大きな励みになります。どうか、多くの方々にグラウンドにおいていただき、激励して下さるようお願いいたします。(組合せの詳細は、OB会ホームページをご覧ください。)

○「誌上広告」について

OB会の財政安定化をはかるため、今年度もOB会員等が経営する会社等の広告を掲載しています。(次頁参照)今年度から広告料は年1回発行で1口1万円以上ですが、12人のOBとOB会役員・父母の会の皆様から、合計215,000円のご協力をいただきました。

ご協力をいただいた皆様には、この誌上をお借りして厚くお礼申し上げます。

○編集後記

記録的な猛暑だった今年の夏もようやく終わり、気がつくと街のあちこちに秋の気配が見られるようになりました。

現役部員たちは、この夏も暑さにも負けず練習に励み(3年生は勉強にも)、まもなく全国大会予選を迎えようとしています。

今年は、昨年の8人には及びませんが6人の3年生が全国大会県予選に出場することになりました。2年前、不安げな顔で入部してきた彼らも今では逞しく成長を遂げ、最後の大会に果敢にチャレンジしようとしています。

日立一高での部活動は3年間ですが、ここで培われたラグビー精神と仲間たちは、今後の人生の中できっと生涯の宝となることでしょう。最後の最後までベストを尽くし、悔いのない高校生活を全うできるよう、これからも支援・応援していきたいと思ひます。

(編集スタッフ一同)

(追記)

OB会報の第4号から前12号まで編集発行責任者でありました前幹事長の近藤雅年様には、企画から発行・配布に至るまで、全般にわたり多大なるご尽力をいただきました。長い間、本当にご苦労様でした。

日立一高ラグビー部OB会報 第13号

発行責任者：幹事長	木下 俊雄(昭和54年度 第32回卒)
事務局長	金澤 勉(平成4年度 第45回卒)
編集者：幹事	松永 啓(昭和40年度 第18回卒)
	柴田 和則(昭和57年度 第35回卒)
	笠井 知洋(昭和59年度 第37回卒)
	菊池 敬(昭和61年度 第39回卒)
	本田 浩一(平成2年度 第43回卒)

問合せ先：〒317-0065 日立市助川町3-7-4 木下俊雄 【電話】0294-21-4890(FAX同じ)

石井米店
店主 石井 博 美
(昭和41年度 第19回卒)
〒318-0021 高萩市安良川270番地
電話：0293-22-3157

株式会社 岡部工務店 岡 部 英 明
(昭和51年度 第29回卒)
〒316-0003 日立市多賀町2丁目10番7号
電話：0294-36-1681

有限会社 川 西 砕 石
常務取締役 杉 浦 巖 夫
(平成7年度 第4回卒)
〒316-0001 日立市諏訪町1275番地の2
電話：0294-33-0359

秋光電気工事株式会社
代表取締役 秋 山 啓 市
(昭和49年度 第27回卒)
〒316-0003 日立市多賀町1丁目20番22号
電話：0294-36-1987

株式会社 トップベイサービス
代表取締役 後 藤 秀 次 郎
(昭和41年度 第19回卒)
〒272-0144 市川市新井3丁目15番28号
電話：047-396-7176

萩原総合法律事務所
弁護士 萩 原 慎 二
(平成4年度 第45回卒)
〒308-0041 筑西市乙828番地の3
SATOビル2階
電話：0296-48-8875

日立一高ラグビー部OB会 役員会
会 長 尾 又 篤
(昭和36年度 第14回卒)

茨城クリーン有限会社
代表取締役 夏井 一 郎
(昭和37年度 第15回卒)
〒310-0804 水戸市白梅3丁目10番5号
電話：029-231-7741

尾又運送株式会社
代表取締役 尾又 篤(昭和36年度卒)
取 締 役 尾又彰彦(平成2年度卒)
〒316-0035 日立市国分町3丁目11番7号
電話：0294-36-2856

株式会社 カントウスプレー
専務取締役 本 田 浩 一
(平成2年度 第43回卒)
〒317-0054 日立市本宮町3丁目32番12号
電話：0294-22-0807

鈴 菊 商 店
代表 鈴 木 真 治
(平成2年度 第43回卒)
〒319-1701 北茨城市平潟町293番地
電話：0293-46-5110

肉の登利要 日立店
店主 古 口 利 博
(昭和39年度 第17回卒)
〒317-0073 日立市幸町2丁目8番14号
電話：0294-21-0971

村 山 商 店
代表 村 山 功
(昭和42年度 第20回卒)
〒319-1702 北茨城市大津町2731番地1
電話：0293-46-0172

日立一高ラグビー部 父母の会
会 長 小 野 豊 満
(ほか 保護者一同)

私たちは、日立一高ラグビー部を応援しています！